

Title	寄贈交換圖書雑誌目録
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1943
Jtitle	史学 Vol.21, No.2 (1943. 2) ,p.136(278)- 138(280)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19430200-0136">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19430200-0136</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

葡萄牙の水先案内を雇入れた習慣の起源とその意義(三二八頁)も、私の示教を得たい點である。これは嘗てボクサー氏の論稿によつて知つて以來、今尙解けぬ私の疑問となつてゐる。右の三點は恐らくそのすべてが私の寡聞に出づるものであらうと思ふのであるが、私としては多少なりとも本書中に關説していただきたいかつた箇所である。尙これに類する希望としては、英吉利商館の代理店の店主や通譯についての記述は、興味深く讀んだのであるが(二三九頁)、同時にこれ等として雇傭された邦人について一二の例證が加へられてゐたならば、一層興趣を増したと考へられる。又圖版が多く挿入されてゐる本書のこと故、序でにマカオで印刷されたポニファッショの「正しき兒童教育」なり、サンデの「日本使節記」なり(一三七頁)、いづれかの寫眞版でも添加していただきたかつたと思つたことである。この他に明かに誤植と考へられる箇所が一二存するが、それ等は博士が小生宛の私信に寛永鎖國令について述べられた箇所と共に、いづれ重版の折に訂正されることであらうからここには掲げない。

以上普通の書評とは異つた形式の讀後感を書きつらねた。本書の眞價は既に多くの識者によつて稱讚せられたところによつて明かである。私の疑問とし又希望した事柄はすべて些細なものであつて、その有無によつて本書の價値が傷つけられるやうなものではないことは斷るまでもない。恐らく本誌の讀者は既に本書に親しまれてゐることと信ずるのであるが、萬一さうでなかつたならば何や彼といはずに先づ第一に本書に接して多年に亙る博士の研鑽

の並々ならぬことを偲び、同時に本書に示された初期日歐交通の事蹟を已がものとするのが一番大切なことであるとせねばならない。(高村象平)

寄贈交換圖書雜誌目錄

- 日本農耕文化の起原
- 蓬左狂者傳
- 尾張國名蹟略志考
- 支那城郭の概要
- 國體宣揚史綱
- 立命館大學論叢 第二輯第六輯
- 中世日支通交貿易史の研究
- 顧鄉屯 第二輯
- 日本文化史論
- 行政院文物保管委員會年刊
- 遼陽
- 回教圈 五ノ九、十、十一、十二ノ六ノ一、二、三、四、五、六、七、八、九
- 佛教研究 五ノ三、四、五、六、六ノ一、二、三
- 相武研究 一〇ノ九、十、十一、十二
- 長崎談叢 二八、二九、三〇
- 神社精神文化 五
- 斯道文庫報 五、六、七、八、九、十、十一
- 支那派遣軍總司令部
- 國史回顧會
- 立命館大學
- 刀江書院
- 滿洲國民生部
- 松本彦次郎
- 中華民國日本大使館
- 滿洲古蹟古物名勝天然記念物保存協會
- 回教圈研究所
- 佛教研究會
- 武相考古會
- 長崎史談會
- 神社精神文化研究所
- 斯道文庫

東洋思想研究 二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二

東洋思想研究所

名古屋溫故會報告 二五、同叢書 七

名古屋溫故會

郷土神奈川 一ノ一

神奈川縣郷土研究会

龍谷史壇 二八、二九

龍谷大學史學會

日大三中研究年報 六

日大三中

全人 一〇五

玉川學園圖書館

皇典講究所講話集 十四

國學院大學

長崎出島和蘭商館長の風説書

武藤長藏

商業と經濟 二二ノ二

長崎高商研究所

歴史と生活 五ノ二、三、四

慶大經濟史學會

大東文化學報 五、六

大東文化學院研究室

滿洲學報 七

滿洲學會

史學會誌 十八

京城帝大史學會

實冬公記

國大學術部

帝國學士院記事 一ノ一、二

帝國學士院

國史と國文學

國史國文學會

國學論叢

國學談話會

史學科研究年報 七

臺北帝大文政學部

三田學會雜誌 三六ノ十

慶大經濟學部

昭和十六年度の國史學界

筑波家國史研究部

和歌山縣聖蹟(上、下)

和歌山縣

六、七、八、九、十

燕京學報 二十九

風俗研究 二三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三

畫説 九、十、十一、十二、一、二、三、四、五、六、七、

八、九、十

人類學雜誌 五六ノ八、九、十、十一、十二、五七ノ一、二、

三、四、五、六、七、八、九、十、十一

北方文化研究報告 六

上毛及上毛人 二九四、二九五

經濟史研究 二六ノ三、四、五、六、二七ノ一、二、三、四、

五、六、二八ノ一、二、三、四

カトリック研究 二一ノ六、二二ノ一、二、三、四、五

考古學雜誌 三一ノ九、十、十一、十二、三二ノ一、二、三、

四、五、六、七、八、九、十

國學院雜誌 四七ノ八、九、十、十一、十二、四八ノ一、二、

三、四、五、六、七、八、九、十

國民經濟雜誌 七一ノ三、四、五、六、七二ノ二、三、三、

四、五、六、七三ノ一、二、三、四

國民精神文化 七ノ八、九、十、十一、十二、八ノ一、二、

三、四、五、六、七、八、九

國史學 四三、四四、四五

勢陽論叢 六ノ五

密教研究 七八、七九、八〇、八一、八二

蒙古 八ノ九、十、十一、十二、九ノ一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一

南方土俗 六ノ三

日本文化 二〇、二一

大谷學報 二二ノ三、四、二三ノ一、二、三、四、五

歷史地理 七八ノ三、四、五、六、七九ノ一、二、三、四、五、六、八〇ノ一、二、三、四、五

歷史學研究 十一ノ七、八、九、十、十一、十二、十二ノ一、二、三、四、五、六、七、八、九

歷史 十六ノ五、六、七、十七ノ一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一

歷史と國文學 二五ノ三、四、五、六、二六ノ一、二、三、四、五、六、二七ノ一、二、三、四、五

埼玉史談 十二ノ六、十三ノ一、二、三、四

仙臺郷土研究 十一ノ八、九、十、十一、十二、十二ノ一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

社會經濟史學 十一ノ六、七、八、九、十、十一、十二、十二ノ一、二、三、四、五、六、七

史潮 十一ノ二、三、四、十二ノ一

史苑 一四ノ二、三、四

史淵 二六、二七

史學研究 十二ノ四

史學雜誌 五二ノ九、十、十一、十二、五三ノ一、二、三、

四、五、六、七、八、九、十、十一

史觀 二六、七、合併、二八、九合併

史林 二六ノ四、二七ノ一、二、三、四

史學雜誌 十三ノ四、五、六、十四ノ一、二、三合併

下野史談 十八ノ四、五、六、十九ノ一、二、三

東方學報(東京) 十二ノ二、三、十三ノ一

東方學報(京都) 十二ノ二、三、四、十三ノ一

土佐史談 七六、七七

東洋文化 一九九、二〇〇、二〇一、二〇二、二〇三、二〇四、

二〇五、二〇六、二〇七、二〇八、二〇九、二一〇、二一一

禪學研究 三六、三七